

チヨウザメ普及へ説明会

7/7(土) 西日本

キヤビアで100億円産業

宮崎県、養殖の研究成果紹介

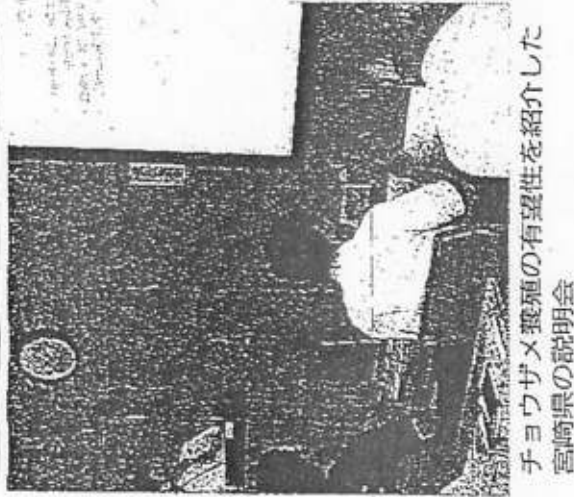
世界三大珍味の一つキヤビアが採れるチヨウザメを新たな特産品にしようと、宮崎県が養殖の普及に取り組んでいる。5

日には都城市の北諸農産改良普及センターで説明会を開催。国内で初めて稚魚の安定供給に成功した同県水産試験場小林

分場(小林市)の担当者が、養殖業者や市町の水産担当者約30人に最新の研究成果を紹介した。

説明会は1月の日南市に続き2回目。チヨウザメ養殖の展望について西府総也・県水産政策課主幹は「キヤビアを年間30トン生産すれば、100億円の産業が創出でき」と県の試算を紹介。高い将来性の一方で「産卵できようになるまで7年かかり、キヤビアが採れるまでの間、多額の投資

も要る」と指摘した。チヨウザメの養殖技術は、同分場が1983年、研究に着手。2004年に全国で初めて、卵をふ化させ育てた成魚から卵を採取する完全養殖に成功した。昨年度から年間約5万匹の稚魚を供給できるようになった。毛良明夫・分場長は「湧き水に恵まれた都城地域は、チヨウザメ飼育に最適。1人でも取り組む人が出てほしい」と話していた。(床波昌雄)



チヨウザメ養殖の有望性を紹介した宮崎県の説明会